

## 第3回府中市学校施設老朽化対策推進協議会の開催結果

- 1 日 時 令和5年10月4日（水）午前9時30分～午前11時30分
- 2 場 所 片町文化センター 3階講堂
- 3 出席委員 14名（選出区分ごとに五十音順）  
池澤龍三委員、田中稲子委員、田中友章委員、三輪律江委員、成清敏治委員、森嶋正行委員、村野太郎委員、筒井孝敏委員、吉田佳子委員、河井文委員、上村貴子委員、岡本啓子委員、堺美佐子委員、高橋成忠委員
- 4 出席職員 矢ヶ崎教育部長、角倉学校施設課長、遠藤学校施設課長補佐、崎井学校施設整備担当副主幹、濱田指導室教育指導担当主幹、七里学校施設課主査、林学校施設課主任、平岡学校施設課事務職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 内 容
  - (1) 前回会議録確認
  - (2) 議題
    - ア 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定について
    - イ 八小・一中の成果と課題について
  - (3) その他
- 8 配布資料
  - 資料10 府中市立府中第八小学校・府中第一中学校平面図
  - 資料11 府中市学校施設改築・長寿命化改修計画における改築費用試算条件
  - 資料12 学校施設改築・長寿命化改修計画 1,370億円に対する八小・一中コスト分析
  - 資料13 十小で未採用の環境設備
  - 資料14 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定

## 会議録

○事務局 定刻となりましたので、ただ今から「第3回府中市学校施設老朽化対策推進協議会」を開催いたします。それでは、会長お願いいたします。

○会長 それでは、第3回の府中市学校施設老朽化対策推進協議会を開催したいと思います。はじめに、事務局に確認しますが、本日は傍聴の申出の状況はいかがでしょうか。

○事務局 はい、本日傍聴を希望される方はいらっしゃいません。以上でございます。

○会長 はい。了解いたしました。それでは次に、委員の皆様の出席状況について、事務局の方から報告をお願いします。

○事務局 委員4名がオンラインでのご出席です。なお、出席委員数が過半数に達しておりますので、本日の会議は有効に成立しております。以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございました。一部の委員の方がオンラインでということで、ちょっと会場のレイアウトの都合上、私の完全に真後ろに今日はスクリーンがありますので、皆さんが発言される時は、声をお掛けいただくか、手を挙げるボタンを示していただけると多分合図が私の方に来ると思います。真後ろで画面を常に見れないので、少し気がつくのが遅くなるかもしれませんが、その点ご容赦いただければと思います。

それでは次に、前回の会議録の確定をしたいと思います。既に委員の皆様には事前に送付しておりますが、何か修正等の連絡が事務局にありましたでしょうか。

○事務局 委員の方からは、修正のご連絡はいただいておりません。以上でございます。

○会長 はい、ありがとうございます。それでは、本日、前回会議録を確定し、今後、事務局において市政情報公開室や市のホームページ等で公開することにしたと思います。なお、本日、机上に会議録を配布しておりますが、黄色く着色している部分は、委員個人の名前が標記されていますので、この部分は公開時には削除いたします。続いて、お手元の次第に従って議事を進めますけども、まず、事務局から資料の確認をお願いできますでしょうか。

○事務局 それでは、確認をさせていただきます。本日は、会議次第のほか、資料が5点ございます。

資料10 府中市立府中第八小学校・府中第一中学校平面図

資料11 府中市学校施設改築・長寿命化改修計画における改築費用試算条件

資料12 学校施設改築・長寿命化改修計画1,370億円に対する八小・一中コスト分析

資料13 十小で未採用の環境設備

資料14 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定

の以上の5点となります。なお、資料につきましては、直前になってしまいましたが、電子メールで送付しているところですが、紙媒体の資料を机に置かせていただいております。これらの資料につきまして、不足等はございますか。

《不足資料なし》

はい。本日の資料につきましては、以上でございます。

○会長 はい、ありがとうございます。それでは、資料の確認が出来たということで本日の議題に入らせていただきたいと思います。はじめに、議題3の(1)ですね。「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定」についてということですけども、事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、議題(3)府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定についてについて、資料番号が前後いたしますが、資料14にて、ご説

明させていただきます。資料14をお願いいたします。

協議会は令和6年度7月までに全10回の会議を開催し、計画改定案を答申として提出いただく予定としております。そのうち、令和5年度は、本日を含めまして全6回、令和6年度に4回の会議の開催を予定しております。

次に、表の右側、「議題(案)」についてですが、現在、予定している今後の議題案を記載しています。はじめに、これまでの2回では、第1回で、これまで府中市が行ってきた本市の老朽化対策の取組として、現在の学校施設改築・長寿命化改修計画の概要をご説明させていただくとともに、改築費が当初想定していた以上に増加していることや、計画策定後に学校施設整備に影響する変化として、「小学校が1学級35人へ移行したこと」、「コロナ後の少子化が進行していること」、「ゼロカーボンへの更なる取組推進が求められていること」などをご説明させていただきました。

第2回目では、現計画に基づき改築した、府中第八小学校と府中第一中学校を見学いただき、本市の改築事業の状況について、理解を深めていただいております。

本日の第3回目では、現計画で定めた改築事業費1,370億円と、八小・一中改築事業費が乖離した状況のご説明と、本市の改築事業費の現状をお伝えし、引き続き、次回第4回目の協議会で、近年、他自治体で改築した学校と八小・一中の改築費用を比較した資料を準備させていただきたいと考えております。今回の実工事費が他自治体と比較してどの程度違いがあるのかについて確認いただくほか、現在改築校の教職員と児童・生徒に向けたヒアリングを進めておりますので、整備内容に対する一つの評価項目として、次回の協議会でとりまとめ、結果をお知らせしたいと考えております。

また、現在、改築事業を進めている三小・六小において、改築費の抑制のため、建物の形状の工夫や学習ラウンジの整備内容などを工夫することで、改築費に影響が大きい建築面積の抑制に努めておりますので、その工夫の内容についても資料提供させていただく予定でございます。

本日は、次の議題において、現計画に対する改築費の現状を踏まえた上で、前回、見ていただきました八小と一中についての率直な感想やご意見を頂戴できればと思っております。

第4回目以降につきましては、八小・一中の整備内容を踏まえ、引き続き、今

後の学校改築において継続して大事にすべきこと、費用面を考慮すると再精査が必要なものなどを整理しながら、全市的な改築事業が持続可能なものとなるよう、計画の見直しに向けたご意見を整理していきたいと考えております。

また、現計画策定後の様々な変化に対して、今後新たに整備方針へ付加すべき項目として、「学校規模の平準化」、「幼保小連携」、「文化センター等の複合化」や「プールの屋内化」等のテーマを設定し、ご議論をお願いしたいと考えております。説明は以上となります。

○会長 はい、ありがとうございました。今、ご説明いただいたように、本日3回目ということで、前回までに現状の確認をさせていただいたので、今回から少しずつ見直しに向けた議論に入っていきたいということで、特に今日は前回八小と一中を見学させていただいて、少し意見交換したのですが、あまり時間が取れませんでしたので、改めて皆さまとその振り返りをしながら、論点の整備等していきたいと思います。それから、先ほどご説明あったように次回に向けて市の方でも資料の整備等いただいているようですので、そちらについては次回説明させていただいて、詳しくお話をしていくということになります。その他、私たちが今視野にいれている論点から漏れていることがあったりするかもしれませんので、その辺についても今後の進め方ということの確認の中でご意見等があれば頂戴したいと思います。ということで、今事務局から説明いただいた今後の開催予定、進め方という部分について、もしご質問やご意見があれば頂戴したいと思います。会議録を作成しますので、ご発言される際には冒頭でお名前を言ってから発言してください。ご質問ご意見等いかがでしょうか。

オンラインで参加の方は見えないので、手を挙げるボタンを押していただくか、一言声をかけていただいてからご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

まずはこの進め方のスケジュールということと、本日次回の位置付けという辺りですけども。特にないですか。オンラインの先生方、特にご意見等はなさそうですね。会場の委員の方々もよろしいでしょうか。

《委員：特になし》

はい、それでは特に意見がないようですので、次の議題の方に進ませていただ

きたいと思います。議題（２）「八小・一中の成果と課題」に移らせていただきます。それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局 はい、それでは議題３の（２）八小・一中の成果と課題につきまして、議題の趣旨と配布資料のご説明をさせていただきます。すみませんが、説明が少し長くなりますので、着座にて失礼いたします。

この両校は令和元年度に策定した学校施設改築・長寿命化改修計画で定めた学校施設の全体整備方針や、建物、配置、各諸室の整備方針を具現化した初めての学校となりまして、整備方針に記載した内容を、設計を落とし込んでいくため、本市の学校整備で初めてのプロポーザル方式にて設計者１社を選定し、その設計者から両校それぞれの特徴を加えて、教育環境面や防災・環境対策等における具体的な整備方針を提案いただきながら改築事業を進めてまいりました。また、改築事業を進める中で学校施設を利用する子供達や教職員、PTA、保護者、社会教育団体などのご意見も伺いながら進めてまいりました。このように整備を進めた両校については、子供たちが毎日を健康で安全安心に生活し、学ぶことができる施設、子供たちが生き生きと学び、学力、心、体の調和のとれた生きる力を身につけられる施設、学校と地域が連携・活性化し、地域で子供たちを育てられる施設、地域の生涯学習、文化、スポーツ活動の場や、避難所の役割を通じて、地域コミュニティの拠点となる施設、環境に配慮した学校施設、などの各整備方針の学校施設の様々な場所で実現した学校作りが出来たものにとらえております。一方では新たな教育ニーズへの対応やこれまでの学校にない防災面やエコ対策に関わる整備を行った他、それぞれの学校の事情を捉えた整備を行ってきたことから、改築費の面では当初想定してた額以上に増加いたしました。こういった状況を踏まえまして、現計画で定めた改築事業費１，３７０億円と八中・一小改築事業費が乖離した状況をご説明させていただき、本市の改築事業費の現況をお伝えさせていただくとともに、この現状を踏まえた上で、前回見ていただきました八小と一中についての率直な感想やご意見を頂戴できればと思っております。それでは、配布資料の説明に移らせていただきます。

はじめに、資料１０の「府中市立府中第八小学校・府中第一中学校平面図」をお願いいたします。こちらは、八小・一中の平面図に整備のポイントを追記したもので、前回見学いただいた両校の状況を振り返っていただくためにご用意したものでございます。

それでははじめに、1ページをご覧ください。こちら八小の1階の平面図となっております。南側中央に児童の昇降口を配置しております。

「児童をあたたかく迎える」をコンセプトに、木材を使用したオープンな下足入れで、視が抜けるつくりこみをしております。また、太陽光発電が見える化したモニターを設置しております。続いて、東側になりますが、赤色の破線で表示している右側部分を地域開放ゾーンとし、セキュリティ区画を整備しており、家庭科室や多目的ルーム、会議室などを配置しております。

続いて、中央北側でございますが、音楽室を配置しております。

八小の特色である鼓笛を練習できる音楽室であり、隣接する楽器庫は十分な保管スペースを確保しており、前室でのパート練習も可能となっております。

続いて、西側になりますが、管理諸室を配置しています。

職員室と事務室を一体的に「校務センター」として整備しております。全教職員の執務室として集約化し、中には授業の資料を蓄積でき教材研究や打合せ等に利用できるスペースも整備しております。リフレッシュコーナーとしても利用可能でございます。

2ページ、裏面の2ページをお願いします。こちら2階になります。

2階は、南側に普通教室と学習室を配置し、北側に特別教室を配置しております。普通教室についてでございますが、よりよい学習環境を整えるため、各教室に面した廊下にロッカーを配置することで、普通教室内の壁面を広く活用するなど多様な教育活動を行える教室とし、黒板・ホワイトボードを整備しております。

続いて、北側中央部にはメディアセンターを配置しております。

オープンな図書室として児童が訪れやすい設えとしております。本棚が並ぶ読書空間のみでなく、調べ学習やグループワークができる空間を確保しております。西側にあります読み聞かせコーナーは、小上りスペースを設け、低学年の児童が和らげるコンセプトとしております。

右側3ページをお願いいたします。

3階でございますが、4学年分の普通教室を配置しております。教室前の壁面やルーバーは掲示面として利用可能なほか、クラスごとにロッカースペースを設け、2、3人で座れるベンチがあり休み時間の居場所ともなります。

また、廊下にあります学習センターは、多様な学習活動を促し、クラスを超えた協働学習や発表活動の場として使用可能です。

4ページをお願いいたします。

こちら体育館棟1階と2階になります。体育館アリーナは競技性・安全性・コストにも配慮したスポーツ床シートを採用し、床からの輻射による居住域空調を設置しています。北側には防災備蓄倉庫を備えており、南側には学童クラブ・放課後子供教室を合築しています。

5ページをご覧ください。

体育館3階には更衣室、4階屋上には大小のプールを設置しており、ここまでエレベーターで移動することが可能でございます。

続いて6ページをご覧ください。

ここからは一中でございます。はじめに1階になりますが、校舎棟では校舎西側に生徒の昇降口を配置し、その奥に日常的な交流を育む大階段のある「かしの木ホール」を配置しています。昇降口・かしの木ホールともに木材を多く使用しております。

次に、昇降口の南側に校務センターを配置しております。コンセプトは八小同様でございます。

続いて、校舎南東側には特別支援学級を配置しております。

学年や学級、障がいの内容に応じた少人数学習が可能な個室と、特別支援学級の生徒全員が集まれる空間を備えております。

続いて、北側には、各特別教室を配置しております。

校舎北西側に赤色の破線を表示しておりますが、避難所となる体育館棟との関係を考慮し、地域開放ゾーンとして多目的ルームなどを配置しております。

7ページをお願いいたします。こちらは、2階の平面図となります。南側に普通教室を配置し、廊下の東西に生徒のロッカールームを配置しております。また、北側、大階段からの接続の良い場所にメディアセンターを配置しております。

8ページをお願いいたします。こちらは、3階と4階の平面図となりまして、上が4階、下が3階となります。それぞれ南側に普通教室を配置しており、4階の普通教室は勾配屋根を活かし、高窓からの採光と通風を確保しております。資料10の説明につきましては、以上になります。

続いて、資料11をお願いいたします。こちらは、現計画の83ページの抜粋となりまして、現計画で定めた1,370億円を試算するに当たっての、改築費用の試算条件などを記載しております。

オレンジ色の点線囲み内は、改築整備費用の試算条件となります。

主なものとして、

①各建物の試算は、直近で改築した十小の改築単価や他市の改築実績を参考とした平米当たりの単価に、新たな校舎の延床面積を乗じて算出しております。

続いて③、普通教室サイズを従来の63m<sup>2</sup>から、小学校は72m<sup>2</sup>、中学校は80m<sup>2</sup>を原則確保することを前提とし、新たな校舎の延べ床面積は、小学校では既存校舎面積の1.15倍、中学校につきましては既存校舎の1.25倍として試算しております。

④から⑦につきましては、十小改築時の平成23年度から、1.19倍の建築物価の変動があったものとして試算をいたしました。④校舎については、十小の改築単価に1.19倍を乗じて計算しております。

⑨から⑩につきましては、十小、三中、五中につきましては築年数が浅いため、改築事業費1,370億円には含んでおりません。

以上のとおり、改築事業費1,370億円は、校舎の整備費では十小の機能や性能で、改築対象となる30校を整備した場合の金額となります。

続いて、資料12をお願いいたします。

「学校施設改築・長寿命化改修計画1,370億円に対する八小・一中コスト分析」でございます。

こちらは、現計画で定めた1,370億円に対する、八小・一中の計画策定時の想定金額と実工事費の推移、また、計画策定時の想定金額を実工事費が上回った要因を検証し、まとめたものでございます。

はじめに1の「八小・一中の計画策定時の想定金額と実工事費の推移」の左側「八小」のグラフをご覧ください。

左側の棒グラフは、平成23年に整備が完了した、十小の改築費用総額で、約34億円となっております。

これに対し、真ん中の八小の平成30年度、計画におきましては51億円、十小の機能や性能で整備した場合を想定して十小の改築単価等に、建物の規模を考慮して算出したものになっております。

十小との差額17億円は、①面積差と②物価上昇によるものでございます。平成23年と平成30年の建築物価指数を比較し、1.19倍の物価上昇分を見込んでおります。

この計画時の想定金額に対し、令和5年度末の八小の実工事費は、約64億円となります。

計画時から上昇した約13億円は、①この間における物価上昇率、②十小には

ない整備内容が付加されたことによるもの、でございます。

次に、右隣の「一中」のグラフをご覧ください。

同じく十小の改築費用34億円に対し、一中の計画策定時の想定金額は約55億円で、十小との差額は八小と同じ理由から、約17億円の差が生じております。

次に、計画の想定金額に対し、令和5年度末の実工事費は約72億円で、17億円の差は八小と同様の理由となります。

その下の横棒グラフにつきましては、現計画1,370億円の内訳として、八小が51億円、一中が55億円を想定していたことを示しております。

その下、赤枠に記載したとおり、計画策定時の各学校の改築費用は、十小の改築単価等を用いて算出し、十小の機能や性能で整備した場合を想定し、算出しています。

八小と一中の計画策定時の想定金額に対し、実工事費では、①計画策定時からの物価上昇分、②十小になく、現在の学校に求められる新たな機能や性能として整備した項目分の費用、が追加され、増額となっています。

次に、2の「計画想定時の金額と八小・一中工事費の差」といたしまして、改築・長寿命化改修計画と八小・一中工事費の差額の要因についてご説明いたします。

①計画策定時からの物価上昇分でございますが、近年、新型コロナウイルスの影響による資源の供給不足、ロシアによるウクライナ侵攻により、建築資材費や人件費が高騰する等、工事費にも大きく影響を与えています。

表の中の1に示したとおり、計画策定時からの物価上昇の影響額は、平成30年3月と令和4年9月、これは、改築工事を開始した令和3年度から工事が完了する令和5年度末までの中間期となりますが、この間の建築費指数の上昇率は16.2%となります。

これを計画の想定金額に適用しますと、2のとおり、八小が59.3億円、一中が63.9億円となり、3の影響額といたしまして八小で8.3億円、一中で8.9億円となります。

なお、建築資材や人件費等の高騰につきましては、引き続き、先行きが不透明な状況となっており、今後も改築事業費に影響を与える可能性が含まれております。

続いて、②十小になく、現在の学校に求められる新たな機能や性能として整備した項目分の費用として、主なものをその下に記載しております。

表の中の左側、項目欄には、大きな区分といたしまして、「エコ」・「防災」・「教育」に分けており、その右側に具体的な項目を記載しております。その右隣に八小・一中で新たにかかった費用を記載しております。

すべての工事契約は、入札により業者を決定しております。入札前には、落札の基準となる予定価格を決めるために、詳細な項目と金額を積み上げた設計金額を計算し、最後に合計しております。落札金額は合計金額だけを扱うため、詳細な内訳は分かりません。そのため、本日お配りした資料では、設計金額の内訳を基に、実工事費に近づけるための計算をしております。

落札率とは、予定価格に対する落札金額割合となっており、多数の工事案件があるため、平均値をとっております。それでは、各項目ごとにご説明いたします。

はじめに、エコ関係では、1「庇による日射制御」で室内温度の上昇を抑える取組、2、断熱・遮熱性能を高め、室外温度からの影響を抑えるため、複層LOW-Eガラスを採用したことによるもの、4は省エネのために光量を調整する装置を設置したものでございます。

5につきましては、室内の温熱環境を快適に保つためゾーン別空調制御を採用したことなどを、十小にはない整備内容として整備したことで、八小では約1億3千万円、一中は約1億5千万円の増となっております。

次に、防災関係では、災害時の避難所として、現在の学校施設に求められる新たな役割を果たすための整備を行いました。

6は太陽光パネルに付属する蓄電池、7はプレハブの防災備蓄倉庫を避難所である体育館内に整備したことによるもの、8はマンホールトイレの整備費、9は停電時に非常用発電機や体育館等の空調の熱源としてLPGガス、バルクタンクの整備を行っており、八小は約7千万円、一中は約1億円の増となっております。

なお、八小の非常用発電設備・LPGバルクタンクにつきましては、改築前に設置したものを移設した経費となっております。

続きまして、【資料13】をお願いいたします。

八小・一中で採用した環境・防災に関する設備のうち、十小で採用していない設備を赤い四角で囲ってお示ししております。

左上から、太陽光パネルの蓄電池、温度差を利用した換気、高断熱ガラス、庇による日射抑制、普通教室のLED照明の昼光制御、ガスバルク供給による災害時発電、体育館空調、マンホールトイレ。以上の設備が十小の整備内容との違い

になります。

恐れ入りますが、【資料12】にお戻りいただければと思います。

続いて、教育関係に関する項目として、現計画の整備方針に基づき、教育環境の充実等のために整備した項目や、八小と一中のそれぞれの事情に応じて、整備した項目を記載しております。

はじめに、11でございますが、十小の改築時には設置していなかった体育館空調の設置費、12は主体的・対話的で深い学びを実現するため、普通教室や学習ラウンジの壁面にホワイトボードを設置した経費、13は温かく落ち着きのある施設とするために内装の木質化に要した経費、14は学校周辺の住環境の変化に伴い、防球ネットを設置した経費、15は屋外トイレや分散していた屋外倉庫等を一体的に整備した経費となります。

次に、16以降でございますが、両校の事情に応じて発生した経費となりまして、16は八小の校庭が狭いという課題を抱えていたことからプールを重層化し校庭を広くするために要した経費、17は八小の特徴である6年生全員で行う鼓笛隊を観覧するため学校や地域からの要望により設置したバルコニーの建築費となります。

18以降は一中に関するもので、18でございますが学校開放の夜間実施校に位置付けられていることから夜間照明の更新費、19は武道場が築年数が浅いため、既存武道場を残す方針としたため、新校舎との渡り廊下建設に要した経費、20番は体育館跡地の活用のため、日常時の軽運動や災害時の防災広場として多目的に活用できるスペースとして整備するための費用、21は特別支援学級設置校として、当初予定していた指導教室・多目的ルーム等に加え、相談室や倉庫を設置したことによる面積増分の費用で、これらを合計しまして、八小で約4億3千万円、一中では6億3千万円の増となっています。

これら3区分の合計額では、八小で約6億2千万円、一中で8億8千万円となっております。

一番下の③の合計額でございますが、①物価上昇と②十小にない設備の整備費用の合計は、八小が約14億5千万円、一中が約17億7千万円となります。

右側の棒グラフは、物価上昇分と設備分の割合を示しており、八小が物価上昇で57%、設備で43%、一中につきましては物価上昇・設備ともに50%となります。

一中については外構工事が多い分、八小よりも設備の割合が多いですが、両校

とも概ね半々の割合となっております。

長くなりましたが資料の説明につきましては、以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございました。これから議論していくに当たって、数点だけ確認しておきたいと思います。

冒頭に申しあげたように、今回と次回で八小と一中の改築事業について、評価をしていくことになるんですが、いきなり細かいことは難しいので、今日はまず全体の振り返りから始めたいと思います。で、前回両方見学させていただいて、皆さん多分、少し成果が出てると思われるところと、もしかしたら今説明を聞いてコスト面の事も考えると少し課題として挙がってくるところなどがあるかもしれませんし、その他もう少しちょっと深めて議論するべきところなどの意見などもあると思いますので、その辺りの意見をいただくところから始めたいというふうに思います。

今ご説明あったように、現実問題として元々の計画で全て30校改築するというので1,370億円という経費が見込まれていた訳ですけども、実際始めてみて、その後の状況の変化も含めて八小と一中の改築費が少し乖離した結果になっているということです。その辺も意識しながら、資料10も眺めつつ、前回見学させていただいたことを振り返っていただいて、皆さまからまずは率直な感想や意見などをお聞きして、それらを集約しながら議論を深めて行きたいと思います。

只今いただいたご説明について、ご質問やご意見があれば頂戴したいと思います。どなたからでも結構ですので、ご質問やご意見のある方は挙手などしていただいて、発言していただければと思います。オンラインでご参加の委員も、もしご質問やご意見があれば合図をしていただければと思います。いかがでしょうか。

○委員 資料12の防災の中にはマンホールトイレというのが八小と一中にあるんですが、既存の小学校にはマンホールがないんですが、中学校11校については既にマンホールトイレがあると思います。数が増えたのか。LPGのガスパルクのタンクについてですけども、八小と一中で値段が違うのは容量が違うのかどうか。去年ですか、全ての小中学校にバルクタンクが入ったんで、多分十

中も入ってると思うんですよ。ここは今後の予算の中から外すことができるのか、移設でいけるのか、そのままか。ちょっと疑問になりましたのでご質問です。以上です。

○会長 今、ご質問のあった3点についてはいかがでしょうか。

○事務局 マンホールトイレにつきまして、確かに一中については、既存で設置されているのですが、避難所としての体育館のから結構離れた場所にマンホールトイレがあります。今回武道場と体育館の間のところ設置するというところについてですが、トイレを利用するに当たって近いところに設置するため、今回新たな位置に配置しているという形になっています。八小につきましては、先ほどおっしゃられたとおり新規でありますので、こちら新規で設置しております。続きまして、ガスバルクタンクになりますが、こちらについては、一中については、今回の改築に併せて新設をしている関係もありまして、新設になっております。今後のガスバルクタンクにつきましては、寿命について十年というふうにプロパンガス協会の方から説明がありまして、そこの年度の境で新設になるところと移設になるところが出てくるのかなと思っております。以上です。

○委員 ということは、マンホールトイレ、中央に全てありますが、現状は校舎から離れたグラウンドの端っこの方に全てあるので、今後は全てそうなるという、そういうことでしょうか。

○事務局 そうですね、今あるマンホールトイレにつきましては、実際に改築する場所によっては、避難所とのつながりというのが出てきてしまいますので、そういった意味では今あるマンホールトイレを維持することはできますけれども、新たな増設というのは考えられると思います。ただ、トイレそのものの数とか、あと校舎をどれだけ開放するかとかによっても、最大限使えるトイレの数が変わってくることもできるかと思っておりますので、そういった意味では必ずしもマンホールトイレを整備するという考え方ではなくてもいいのかなと思ってます。ガスバルクにつきましても、ガスバルクを設置したという考え方については、災害時の時に、ある一定の熱源を貯留しておくことでメリットがあると考えてこ

れまでは整備しております。今後、都市ガスも災害時に供給できるということになれば、通常時のコストでのメリットを考えますと、都市ガスを採用していくということも十分に考えられる事なのかなとも思います。そういったところについては、日常と災害のインフラ確保の状況に応じて考えていきたいと思っています。以上です。

○委員：ライフラインとして都市ガスがだめだからプロパンにしたんじゃないかなというふうに思ってるんですが、これまた戻る可能性もあるってことなんですか。それとマンホールトイレを新設するに当たってですね、今回ちょっと見学は出来なかったんですが、盛んに言われているのが、女子と男子をうまく分けて欲しいというのがあります。今までは5個はなかったんですが、それが全部一並びというかどちらが男子女子もなかった。そこら辺改善しようっていうのが危機管理の方では言われていたのでそこら辺を考慮に入れていただければと思います。以上です。

○会長：はい。じゃあ、今の点のご意見ということでよろしいでしょうか。事務局も特によろしいでしょうか。今の点は、何か最後の点については。

○事務局 一点だけ補足です。例えば中圧ガスは、災害時にも供給できるような強さを持っているという話も出てきていますので、そういった状況の変化は、取り入れながら整備をしていく必要があるのかなと思っています。

○会長：はい。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

○委員 誠に申し訳ありませんが、エコとか防災の件につきまして、設置が義務化されているものとそうでないのがあるのかどうか、その辺の区別がちょっと私分かりませんので、その辺からちょっと考えていかないと、なかなかちょっと難しいような感じがします。その辺をお願いしたいと思います。以上です。

○会長 そうすると、資料12に出ているものの内訳ということでしょうか。

○委員 資料12のエコと防災で、これはかなり新しい、他の地方の学校、小学校で聞いたことがない装置とか、そういったものを取り入れておられるようですので、それがこの府中市では取り入れられていると思われまますので、その辺の区別をちょっとお伺いしたいと思います。以上です。

○会長 それでは、各項目の位置づけについてご確認いただけますでしょうか。

○事務局 まずエコと防災に関しては、設置義務がこの1から10の中で項目としてあるものについては特にございませんが、例えばエコになりますと、今回は八小と一中に関しては文科省エコスクールという認定を受けています。通常に設置した機器の場合と、省エネ対策をした場合の機器の設置をした場合の比較をした時に、一割の減少ができるような施設を作ることができれば補助金の嵩上げがあるエコスクール認定というのを受けております。そういった中で、省エネの計算上、クリアできるような整備というのを設計者に提案いただいた中で、エコの項目というのがあがってきております。省エネ対策というところで、十小にないものとして、その項目を記載しております。

防災に関しましては、こちらは今防災に関しては、八中・一小ともに避難所になっております。体育館棟、武道場が避難所になっているんですけども、災害時にどういうふうに機能させるかというところで、特に設置するものに対しての義務付けというのはありません。ただ、災害の時、例えば停電が起きたとか、水道の供給が停止したとかインフラが停止した場合にでも、復旧するまでの目安の期間がありますので、その期間避難所に来ている方たちの生活が確保できるというところの視点で、それぞれ蓄電池ですとか非常用発電機とかいったものを設置させていただいている状況となっております。以上です。

○会長 ありがとうございます。制度上の制約で設置義務がある。それからエコスクール等の認定の条件になっているもの。そもそも論として、前回の計画で位置づけてその延長上で整備をしているので、全くそういうものがなくてスタートしているわけではないと思います。ただ結果としてこういうような状況になっているので、計画の中で明確に方針づけをして設置しているものあれば、その中に含まれるものだろう、ということでご提案いただいたものを取捨選択しているということもあるので、今後計画の見直しに向けて、どの辺りは引き続き重

点的に位置付けていく必要があるとか、どの辺りは少し厳密に取捨選択をして、過剰な予算の増加が起こらないようにしていく必要があるか、少しそういう方向性の議論を追々できると思います。恐らくはこの計画の議論において、個別の改築校の予算内訳を見てこれは○、これは×ということは出来なくて、設計者と発注者の関係の中でしっかりやっていただくとと思いますので、その大元になる方針の計画をどういうふうにもっていくかという議論をするために、まずはそれを耕す意見交換が今日出来ればと思います。恐らく皆さんご覧になって気になるところもあれば、出来上がってすごく成果が出ていると思われるところもあると思いますので、その辺りの振り返りをして、どういう意見が多くあるのかという辺りをまずは聴取したいと思いますので、その辺も含めてご質問ご意見あればいただければと思います。いかがでしょうか。

○委員ご説明の資料の作成、ありがとうございました。詳細に、この内訳等も含めてどのような建物が出来てとか振り返りができました。数値でも確認が出来るので大変参考になる資料かなと思って拝見いたしました。今ちょうどご指摘があった、エコの施設に関わる場所に関する質問ですが、今回拝見させていただいて感じたこととしては、見学させていただいた時が運用中という程ではなかったので、空調の効きですとか、その辺りちょっと体感はしてないですけども、非常に内装も明るく作られていて、子供たちが放課後に、非常に楽しそうに過ごしている様子は確認ができて、学校施設としては非常にいい施設だなという感覚を覚えています。環境計画に関しての色々な配慮がされていて、ここに書かれているような日射遮蔽ですとか、基本的な昼光利用ですとか、基本的な環境計画がなされているなという印象を持っています。で、先ほどのご指摘に関わって質問も含めてのコメントなんですけれども、先ほどの回答の中でエコスクールの認定を得るために省エネ基準がクリア、配慮しているという言い方だったかもしれないのですが、基本的に省エネ基準というのが適合義務化されていますので、恐らくここに書かれている日射遮蔽ですとか、断熱というのは基本的にやらないと一次エネルギー消費量が基準とおりにならないのでは、というふうには思っています。その辺り、例えば過剰にやっている部分があれば見直しができるのかなと思うんですが、どの部分が省エネルギー基準に適合するために必要なものだったかというのは、内訳としてはいずれ把握しておいた方

がいいのではないかというふうに思いました。その中でちょっと質問なんですが、高断熱と書いてあるのが、躯体の断熱のことなのか、ガラスにだけかかっている内訳なのかがちょっと読み取れなかったのですが、躯体も断熱してこの金額ということでよろしいのでしょうか。エコの2番目の項目ですね。高断熱、ガラスに掛かっている文章に見えるので、躯体が断熱されてないようにも見えるんですけども。体育館についても空調が入っているだけで、体育館の躯体が断熱されていないのかなとか、ちょっとその辺りが気になりました。というのは、運用のコストもかなり変わるはずですので。初期費用だけで議論されてますけれども、学校の運用のコストも空調をただただ垂れ流して使うというよりは、非常に効率のいい空調の使い方になっているはずですので、そういう運用面でもいずれ、まだ竣工したばかりだと思うので実績値が余りないと思うんですけど、そういう見方もされるのがいいのかなと思いました。ちょっと質問とコメントが混ざってしまったんですけども。以上です。

○会長 それでは今、質問いただいた部分についてはいかがでしょうか。

○事務局 今回、資料12の高断熱高遮熱ガラスの項目に挙げさせているものに関しては、ガラスの部分の金額を掲載させていただいております。断熱に関しては、基準に則って、厚みを採用しております。以上となります。

○会長 ありがとうございます。制度上の基準を上回る性能設計をしている部分もあるのかと。特にどこかございましたでしょうか。

○事務局 今回、省エネ適判の方は受けております。全体として今回クリアにしているという中で、これが過剰かというやり方としてはちょっと難しいかなと思っています。今後、補助金を取っていく中では、ZEB化の方に進んでいかないといけないとなった場合なんですが、今の省エネ適判の方の値を見ますと、若干足りているか足りていないかぐらいの瀬戸際のところになっておりますので、基準のを目指して足りないところは補ったりするなど、工夫して設計していかなければならないと思っています。以上です。

○会長 ありがとうございます。今のお話を聞いていると、必ずしも容易に削減

できる性質のものではないような気がしますけれども。先生、いかがでしょうか。

○委員 回答ありがとうございます。そうすると、躯体分の費用がここに増えてないということでもあると思うのですが、今のご説明ですと、このエコに書かれている項目は削減が出来ないと。今の法律に従えば、学校を作ると確実にこの1から5、プラス躯体の断熱が入ってくるのだとすると、そこの説明資料に補足をつけていただいた方が議論しやすいのではないかとというふうに思いました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。

○委員 質問が2点あります。まず、面積の関係と絡んできますが、特別支援、中学校の方の特別支援学級の面積増の方はこちらの方に増加分として算出されているんですけども、小学校の学童、放課後子供教室の面積増が入ってないということは、最初の計画からずっとそういうものについては計上されているということで理解が正しいでしょうか。というのがまず1点目です。それから、今回非常にとても特徴的な計画、建築計画の学校計画になっているんですけども、特に例えば小学校とか中学校とか、廊下が片廊下ではなくて、非常に子供達がゆったりとこう、少しずつ小さなチームになって留まれるような空間が出来ていたり、あるいは簡単に言うと、少し出っ込み引っ込みのようなものでバルコニーを上手くつなげていたり、そういう意味でいうと、普通の学校教室に、学校建築に比べると、共用部、いわゆる廊下だったりだとか、その辺りの建物、躯体の立米だったりとかですね、その辺の見込みが、ちょっと多めに取られているのかなという印象があるんですけど、その辺の部分に関しての持出しとかですね、その辺は吸収されている理解でよろしいでしょうか、当初の計画からみて。今回整備内容と物価上昇だけで資料12の方が整備されておりましたので、その辺の計画に関しての増は吸収されているという理解でよろしいでしょうか。質問2点になります。

○会長 今いただきました質問、ありがとうございました。質問についてご回答があればお願いします。

○事務局 1点目のご質問に対してお答えいたします。学童分の費用でございますが、今回資料12に記載させていただきました八小の64億円という部分に関しましては学童の費用については入っていない形になっています。ですので、今回の学童分の項目については記載をさせていただいておりません。

○委員 要は、ここには含まれていないと。

○事務局 学童分は入っていません。

○会長 言い換えると、今回その予算の増分になって、それが当初計画と合う合わないという議論が最終的になされる訳ですけども、その計算の間違いだということですね、学童に関しては。そういう理解でよろしいですか。

○事務局 仰るとおりです。

○委員 はい。分かりました。

○会長 たまたまそれが今回、合築されていると。計画上合築されているんだけど、その費用の予算の内訳としては、今回の計画、改訂する計画の中ではないということです。

○委員 分かりました。

○会長 次に面積について、いかがでしょうか。

○事務局 既存との比較で、回答させていただきます。元々既存の校舎が片廊下、南側に教室があって北側に廊下がある。そういった建物形状でしたが、今回整備されたものが、真ん中に廊下があって、南側、北側に諸室があるような形になっておりまして、共用部がかなりゆったりしているように見えるのは、廊下がふたつ分くっついている形になっておりまして、当初の既存の建物ですね、共用部から、今回普通教室が広がっている部分、面積を割り増したという話を先ほどしていたかと思いますが、その割り増した数字と換算すると、それ程

変わらない結果になっているかなというふうに分析しております。

○委員 はい、分かりました。まず質問のお答えを聞いた上で計画等に関する感想というか、ちょっと述べたいと思いますが、見させていただいて、先ほども少しありましたが、いわゆる従来の学校に比べて子供達の溜まりやすさだったりとか、小さなコミュニケーションみたいなものが図られている感覚がまずあったので、そういう意味で言うと、よくありがちな面積のところがですね、今みたいな工夫、建築計画の方の工夫によってある程度子供たちのいろんなコミュニケーションの、小さい個であったり、2～3人であったり、あるいは大勢であったりみたいなことに対して、細やかに対応ができる計画っていうのも可能だと、予算の中で可能だということは、今後の次のところで子供達のアンケートに出てくると思いますが、それも踏まえて評価すべき点としては、一つ、あの建築計画としての有効性みたいなのが見えたかなというふうなのが一点あります。ただ一方で、先生方の方が、そういう空間をもっと授業展開だったりとかですね、あるいは地域連携だったりとかですね、そういうところに上手く使っていかれるかというのが、もしかしたらマネジメントのところになっていくと思います。これも次回、多分そういうアンケートとかが出てくると思いますが、そういう空間を教育現場だったり、教育時間だったりとかですね、或いは地域連携の場にも上手く活用していくことによって、面積の費用対効果みたいなところはもう少し評価も出来ていくと思います。その辺りの視野で見るに値するいい建築、いい事例かなというふうに思ってお見せしておりました。それからあと、私もちょっと過去に、阪神淡路大震災の直後に震災復興計画等計画した経験もありまして、今まさに地域連携エリアというふうになってるところですね、この辺は日常的な地域連携エリアであると同時に防災時には教育機能と避難機能とですね、住み分けながら並行して常時並行して使えるということを意識した計画だというふうに捉えられますので、むしろこういうところは、特に調理室とかそういうものに関して多目的ルームとか、この辺のところはむしろ日常的に地域の方々に上手く使ってもらって運用っていうのがセットにならないと、宝の持ち腐れというか、いざという時にどういうふうにするんだとみたいなことも絡んでくる話だと思うんです。この辺も多分、今後の運用だと思うんですが、先ほどから申しあげていますとおり、学校にそういう機能が、日常時から非常時に関する機能が付加されて、先ほど防災の色々なマンホールトイレとかそういう話も出ましたけ

ども、ああいうものに関しては、やはりその辺りを学校の皆さんと住民の方々と  
いかに使いこなせるかっていうところに掛かってくると思いますし、逆に言う  
と、この間も話ししましたが、学校教育の中で予算を立てるだけではなくて、む  
しろ違った、例えば防災のことだったりとか、先ほどの子供の預かりだったりと  
かですね、そういうものが別予算になってるみたいなところを上手く、学校の中、  
学校建築の中で統合して費用的なものを考えていくという予算の組立みたい  
なものも、今回の検証を経て、少し声をあげていくというのも一つの方法かなと思  
いながら見ておりました。私からは以上です。

○会長 ありがとうございます。今、ご意見を頂戴した部分ですけれども、先  
ほど議論があった廊下とかの面積のことも、前回皆さん見ていただいたように、  
必要最小限の移動のための空間があるわけではなくて、そこにちょっとゆとり  
があって、若干面積が増えているんだと思いますけれども、それを主に移動にも  
使いながらも子供たちが色々溜まったり、別の活動に使えるようになってると  
いうところが一つ効果的な部分かもしれません。それから今ご指摘があったよ  
うに地域開放ゾーンなどもセキュリティ区画をとって、ある部屋を多目的ルー  
ムや家庭科室など、そういうふうに使えるところに集中的に配置しているとい  
うことも、これも計画上の工夫で出来ていることですので、必ずしも面積が増え  
るということにはなっていないのかもしれませんが。ですから資料11の③に今  
回小中学校とも既存校舎面積例えば1.15倍とか1.25倍という設定で条件  
設定をしていますので、これをもし変えないのであれば、この増えた部分の余裕  
を上手く計画的に使うこと、計画に反映する工夫で使うことで色々な事が出来  
る部分が、それがもしかしたら今回からですね、設計者をプロポーザルで選定し  
て、その部分に少し手間とエネルギーをかけてやっている部分の効果が出て  
いる部分かもしれませんので、その辺りの評価もちょっと今後議論していく必  
要があるのかなというふうに考えております。その他いかがでしょうか。何でも  
結構ですので、見てこんなこと考えたとか、こういう点、非常に良かったんじや  
ないとか、こういう点もう少し議論をお願いしたいとか。

○委員 学校の教育施設として、今の学校に必要ななと思っていた子供の空間  
等が保証されていて、とても教育施設として素晴らしい学校だな、というふう  
に感じています。教育のどういう学校をこれから目指すかというのが設計の方と

お話をしても、子供たちの学びあいのある施設が必要だろうというのが考えながら作られたというのがわかりまして、非常に感銘を受けたところです。その上で公立学校としての教育環境標準化というところが、計画の中に謳われておりまして、この教室の広さ等についても以前から課題であったものを整備されているという部分を考えて、ちょっと予算、お金が私にはわかりませんが、標準化ということが児童数の変化等、柔軟に対応するとか、色々計画にあるんですけど、標準化っていうものをどのように捉えて今回計画をされているか。例えば八小の計画が51億円とあるんですけども、この基本的な標準化の金額がある程度どの学校も算出されていて、物価の上昇ということについてこれはもう不確定なところもあるんですけども、標準化ということについて、これから計画として建てる時に、基本的には要するに、変えられないという意味合いも標準化の中にあると理解してるんですけども、この51億円とか55億円の計画が標準だという視点ではどういうふうな位置づけになっているのか確認させていただければありがたいなと思っております。今の校舎が、八小の校舎が非常に期待する校舎になっているものですから、その標準化をこれから維持するっていう視点でちょっと教えていただけるとありがたいなと思います。

○会長 今の点についてはいかがでしょうか。

○事務局 非常に難しいというか、悩ましいところと思ってるところです。八小と一中を整備して、整備方針としてまとめてきたものを、初めて形にしてきたんですけども、その中で改めて私たち教育委員会の方としては、細かい仕様とかも含めて同じ機能をもし持たせることが出来るのであれば、コストを抑えることは出来ないのか、というのを常に考えています。そういった意味での標準化というのは常にしていく必要があると思っております。一方でその1,370億円というものが、改築費用の総額の中では十小にない機能とかがあっていうのを加算して建築単価を設定した上で出したものではないというところもありますので、そういったところをどうやって吸収するかっていうのもまた一つ課題なのかなというところもあります。これから財政部局とも協議をしていくことになるかと思うんですけども、いったんは1,370億円という線を示していくという状況にあるので、色々な工夫をしながら、それに向けた形の中で費用のコスト削減とかを当然考えなければいけない。ただ一方では、教育環境とか求められてきている

機能を実現している八小と一中があって、それをどこまで今後の標準として整備していくかというところのラインも定めながら協議していく必要があると思っております。そういった部分の話と、あとはもう少し大きな全市的な考えの中で、今ある学校にある施設とか設備とかというのが本当に必要なのか、適正規模の考え方とか、そういったところも全体としては見ながら、改築費用の全体的コスト削減というのでも取り組まないといけないのかと。標準化とコストバランスというところを今後どういうふうを保つたらいいのか、非常に悩ましいと感じております。

○委員 ありがとうございます。私としては、まだはっきり私も計画の中でよくわからない、非常にいい計画だと思っています。私も計画の時にたまたま十小に関わっていたものですから、色々意見を言わせていただいたんですね。そういうものを非常に取り入れていただいているというふうに感じております。ただ何を根拠に、何を大事にしてここだけは譲れないというところをきちっと踏まえて、そこを基本にして、地域だとか学校の事情に合わせていくというところをはっきりしないと、作るたびにこれがいいあれがいいと豪華になるというか、機能が追加されていくということは避けられなくなってくるので、もう少し何を本当に大事にするのか、教室の広さっていうのは非常に重要だとなってくると思うので、例えばそういうこととか、そこは気にしていかないと。何を減らせられるのかっていうのは判断するのはすごく難しいなというふうに感じているところです。

○会長 ありがとうございます。上手くできている部分もたくさんあったということは評価していただいているようなので、今ご指摘いただいた標準化の継続性みたいなものをよく考えて、どこの部分は絶対に守らなければいけないものとして続けていくのかということですので。次回以降資料を作られる、あるいは議論の道筋を立てていく上で、ちょっと考えていただききたいのですが、外的な要因で私たちがこの審議会ですぐに知恵を絞っても対応出来ない事柄ってのはありますよね。例えば、先ほど委員からも指摘があったように、制度上この水準を満たす必要があるというときに、不可避な事柄っていうのは削りたくても削れない。物価が上昇してるというのも外的な要因ですので、どうにもならな

いんですよね。じゃあ、その時にその増分を先に引き受けて、最終的な着地点を決めてしまうと、先ほどの面積増の件も含めて、確実に担保したいところを削られてしまうみたいな話になると、議論が変なところに行ってしまうかもしれないので、議論をしやすくなるように工夫をしていただけるといいのかなと思います。あまり私が意見を言わない方がいいと思うんですが、若干面積増になっていることで、計画上の自由度が上がっているっていうのも、今回効果的に成果が出ているものの裏支えになっていて、そこの面積増の部分を設計者の方が工夫してくださっているんで、実際ここにプラスアルファの費用にはなっていないけれども色々な事ができている部分もあるのかもしれないので、そのあたりもしっかり評価していけたらいいのかなと感じておりました。その他、いかがでしょうか。

○委員 まず事務局の方々が大変ご苦労されて資料作られておられましたので、本当ありがとうございます。特に資料12の最初から疑問に思っていた、何をもって金額が大きくなったのかというのが、ここで明確になっていて、他の自治体さんを見ていると、ここまで分析を詳細にされている自治体は少ないと思いますので、このコスト分析は非常に重要な、次の課題の整理になるかなと思っています。その中で、今日はテーマが「課題」ということなので、皆さん、先生や色々な委員の方からですね、素晴らしい点は発表されておられましたので、私は少し「課題」という意味で、建築マネジメント的に少し気になったところをお話させていただくと、建物のデザインですけども、雁行型と言って、出っ込み引っ込みがちょっと多すぎて、実際の躯体の施工精度とか施工のやり易さを含めて、コストを割高にしてしまう傾向にあると思います。あるいは、メンテナンスが非常にしづらくなる、施工上とメンテナンスが非常にしづらくなるってことが出てくる可能性もあるので、そこは個人的には、もう少しシンプルにスマートなデザインを心がけてはどうか、というふうには思っています。もう一つ、建築計画とするとプールが、やはり八小についてはコストアップの原因になっているような気がします。例えば資料12を見ても、プールを重層化することによる躯体の強度の補強とかを含めて、かなり上に乗っけることによって、かなりのお金を使わなければいけなかったんだらうなどは思います。これは当然ですけど、私が気にしてるのは、水ものを上に乗っけるということ自体です。経験上、水が1、2年で漏れることはないんですけども、長い年月経ってメンテナンスをした

時に、下の階が体育館等であると、その間中使えない、ということも出てくるので、重層化してまで一つ一つの学校に本当に必要なのかというのは、精査をした方がいいと思っています。プールの実際の稼働時間は、年間10コマ程度で、本当に10コマちゃんと泳げてるかということ、例えば晴れていても暑すぎて泳げないとか、天候が悪くて水温が上がらないとかですね、色々な状況がある。そうした事を考えると、プールを作ることが目的じゃなくて、そのプールで何をどういう指導を、どれだけ効率にやるか、いわゆる子供の泳力を育てる事がメインですので、そういう環境をどう整えていくかという事を考えた方がいいと、このコストを見ても考えます。ついでに資料12のコストで言うと、内装の木質化とあっていうところに八小で1億円以上使ってますけども、これも今後、意匠上の木質化っていうことをどこまでお金をかけてやるのかってというのは考えた方がいいのかなとは思いますが。そのお金があるんだったら、例えば違う方にかけていうことも考えられるんじゃないかと思えます。あと、エコの話でいうと、一般の方々はエコをやるといかにも省エネが達成されて、今までの学校よりエネルギー量が減るんだと思ってる方が多いと思えますけども、これは実績値を今後検証した方が良くと思います。上がること、量が増えることは悪ではないんですけども、これだけの規模の学校を作った時に、どれだけのエネルギーを消費していかないといけないかっていうのは実際に見ていかないといけないと思っています。例えばこの建物って、私はマネジメント的に全庁的な視点で言うと、この学校単体で見ると非常に素晴らしいと思うんですけども、この建物は数千平米もっているんで、小さな町役場の本庁舎を立てる規模の面積、あるいは予算を使うんだっていう意識をしっかりと持ちながら考えていかないと、メンテナンスを含めて、今後、私が申しあげたような持続可能なお金の使い方ができないと思えました。長くなりましたが、今後の課題として以上になります。

○会長 ありがとうございます。今、ご指摘いただいた点について、何か事務局の方から補足されることはございますか。

○事務局 貴重なご意見をいただきありがとうございます。次回ですね、三小と六小の工夫の方を紹介させていただこうと思うんですけども、やはり雁行型のデザインというところの部分で、違う設計者の視点からすると、やはりシンプルに作った方が建物のコスト的にも施工の割高性とかも含めて、シンプルな

形の方がいいんじゃないかということで、三小と六小についてはそういった提案をいただいております。八小・一中の実績を活かしながら、シンプルな建物をどう作るか取り組んでいます。次回以降ご紹介していきたいと思っておりますし、やはり課題なのかなと感じています。プールにつきましては、八小の校地を広く取るというところと、と災害時の水の利用という観点から屋上に持って行ったところであるんですが、結果としてはそういうところがコストアップに繋がっているというのが分かってきてますので、プール全体の運用の仕方というのも含めて、引き続き委員の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。あと、内装の木質化に関しても、子供たちが居住する部分について温かみがあるような空間が作ればいいんじゃないか、大きさとか範囲もやはりあるかと思えます。八小と一中は入口から温かみがあるような雰囲気を作っているのはありますけども、そこに関しても、やはりコストは掛かってきているので、どこの部分でそういった機能、役割が必要なのかということについても、子供達とか教職員のアンケートをこの後取ろうと思っておりますので、そういったところの結果も見ていただきながら、委員の皆さんのご意見いただけるといいと思っております。

○事務局 補足を2、3点させていただきます。委員からいただいたように、特に一中の方は上下に雁行しているような作りになっています。立ち上げていくとなると、建物の型枠であるとか仮設の足場を組むにしても、下の所に一層目を作って、またそこで建て直しをして、二層目を作って、さらに三層目の時にも建て直しをするという工事が出て来ますので、型枠や部材等の使いまわしが出来ないとか、そういった点がいくつか出てきているところもあります。こういったところが、先委員さんからお話のあったように、スマートに計画するといったところの行程も含めて解消が出来ればなと思っています。またプールについても、我々も課題意識を持っているところでございまして、先日事務局の方で、調布市にある調和小学校と市内にある明星学苑の地下温水プールを見学をさせていただいてきたところでございます。そういったことについては、今後どこかの機会でお話が出来ればなと思えます。エコの関係につきましては、少し頭を悩ましているところが、東京都含めてゼロカーボンシティを宣言しているところで、府中市も昨年ゼロカーボンシティを宣言している中で、今のエコの基準で学校を作っても、到達がなかなか難しいものですから、実際にゼロカーボンシティ、カー

ボンオフセットをもっと前に進めるとなると、今作った基準よりもワンランク上の整備を要するところもあろうかと思います。そういったところも今回ご議論いただいた中からご参考にさせていただければ、出っ込み引っこみを作りながら、計画の方を見直さないといけないと感じているところでございます。

○会長 はい。ありがとうございました。補足いただいた件、委員よろしいでしょうか。

○委員 色々大変な面もあると思いますけれども、コストマネジメント的に今後検討は必要だなと思いました。はい、以上です。

○会長 平面断面形状の件、それからプールの議論の件、それから木質化等、あとエコの件。それぞれ今後論点になってくと思いますので、整理をしていただければと思います。ここに含まれてない項目としてもう一つあったのが、仮設校舎のことかもしれないですね。これも多分、各整備校の敷地条件によって出来る所と出来ないところがあるんだと思うんですけども、コストをかけて、同じ位置に校舎を置くことのメリット・デメリットがきっとあるはずなので、その辺も少し整理をしていく必要があるかも知れません。

○委員 私の方からは感想になるんですが、見学させていただいてとても素敵な学校だになってというのが第一印象でした。あと廊下の面積がかなり広がって、余裕が持たれたので、車いすの人たちも非常に使いやすいだろうと思った反面、先ほども出てましたけど、凸凹があったので、動線がちょっと斜めになってしまう可能性があるんで、児童生徒が一斉に動いた時に、やはり動きづらい面もあるのかなというのは、ちょっと感触として持っています。あと見学の時にも個別で申しあげたんですが、アリーナのステージに上がるスロープとかが一切なかったんです、どちらも。卒業式に車いすのお子さんがステージに上がらないんですか、っていうふうに申しあげたんですけど、あと、校長先生が車いすって場合もひょっとしたらあるかもしれない。そういった時に、常設のスロープじゃなくても、昇降機等が設置できるような余力っていうのが必要になってくると思いましたので、その時に感想として述べさせていただきました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。今、ご意見いただいた件については何か補足等ございますか。よろしいですか。はい、それではご意見ということで頂戴させていただいて、その他のまだ発言されてない委員の方、感想でも結構ですので、是非何かあれば。

○委員 感想をまずですね、一小・八中を見学させていただいて、本当に綺麗で、私立の学校に行ったみたいなの、そんな印象を受けて、素晴らしい建物だなと感じました。ただ、一事業者から考えると、私も会社で老人ホームとか、マンションとか保育所とか建てて所有してますけれども、いずれも四角い建物を建てています。やっぱり立てやすさ、それからメンテナンスのし易さとか、当初の見積額から一割以上も支払額が増えるなんていう事はもってのほかなんで、まずそういうような計画は立てないで、計画どおり建ててもらおうというのを最優先にします。ということなので、青天井に上げていくんじゃないよ、というのが一事業者としての気持ちなんですけれども、私 PTA の代表で来てますけど、保護者からすると、自分たちが一生懸命働いて納めた税金が、子供のために使われるのであればいいのかな、なんていう思いもあったりして、自分の中で今、気持ちがなんとも表現しづらいなというふうに、そんな感想というか、気持ちを持っております。ですので、コスト削減が可能であればしていただきたいなと思うところです。質問が3点あるんですが、まず計画が1,370億円を立てたところから、物価上昇が1.19、更にその後に1.16、掛け算すると1.38、4割近く値段があがっていて、これ計画を1,370から1,900位に上がるようなそんな話もあるのかどうかと。2点目なんですけど、助成金の話があって、省エネ、何割かカット出来れば助成金が得られるということで、これを引き算すること、計画から引き算することが出来るのか。3点目、省エネで本来かかるであろう金額からどれぐらいカット出来ているのか、一中なり八小なりの見積額と得られた助成金額がもし分かれば、ご参考までに教えていただければと思います。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。今、ご質問いただいた件について、ご見解があれば。

○事務局 1点目の計画の経費からの増額ですけども、これに関しては現段階

だと、何とも言えないところではあるんですけども、先ほど各委員からもお話があったように、外的な要因とかも含めてどのように捉えるのかなというところも含めて財政部局と協議していく内容になると思っております。ただ一方で、他の公共施設の中で、学校という位置付けは半分くらいの公共施設の割合を占めてますけども、他の公共施設がこのあと一斉に老朽化を迎えてきていて、老朽化対策を立てていく状況も出てきておりますので、そういった中では、まずは1,370億円というものを意識するということ、財政部局の方から話としてはある状態とはなっています。計画からの引き算が補助金に関して出来るかというところなんですけれども、実は1,370億円に対して、財源構成というのが、その費用を何で捻出するかという構成があります。ざっくり言うと15%くらいが補助金となっていて、4割くらいが地方債という形でお金を借りている形、残りの4割くらいは学校の改築基金というものを作っていただいております、毎年毎年15億円貯めていってもらって、それを使っていくような計画になっています。残りは毎年の市税等の一般財源を使うこととなりますので、その部分も含めて1,370億円という形になっております。

○事務局 エコに関するご質問の方なんですけども、一応助成金というか補助金の関係で言いますと、単価に2.5%の加算がされるような形になっておりますので、エコだけに関していくらってというのは難しいんですが、現状そういった形でエコを備えると加算になるという状況でございます。

○会長 はい。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○委員 加算というのは、助成金額に加算されている？

○事務局 平米単価に、通常の1平米いくら当たりの金額に、年2.5%上乗せされるという、それ掛ける面積というような形です。

○会長 はい。ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

○委員 前回見学させていただいて本当に素敵な学校だなと思ひまして、我が子たちが入れないのはとても残念な位にとっても素敵だと思ひました。特にいい

など思ったのは図書室の温かさ、これからやっぱり図書室に行きたいと思う子が今まで以上に増えるんじゃないかなと思いましたので、とても素敵な図書室だと思いました。先生方もずっとおっしゃってるんですけど、教室が対面、向かい合って設置されているのは、異学年が交流だったりとかしやすかったり、色んな子がいるんだなっていうのが見えやすい反面、授業をしてると一列になっている教室でも隣の声がすごく響いて、授業に影響したりするのを授業参観でも見た事があったので、そういう影響はないのかなというのを率直に感じました。季節のいい時だと窓とかも開けたりするので、そういう音響とか響きとかもどうなのかな、授業に影響しないのかなというのは感想として感じました。あと1点、お金のことでお聞きしたいんですけども、ニュースで、ふるさと納税で他の自治体がすごく税収が、世田谷だったかの税収がすごく減って、学校の改築にお金をまわせなくなって頓挫しているっていうのをニュースで見て、府中市の方のふるさと納税での減収とかっていうのは、どの程度あるのかご存じであればお聞きしたいのと、それが先ほどからもあるように1,370億に影響してこないのかなっていうのを、もしお分かりでしたらお聞きしたいなと思いました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。最後のふるさと納税の件は何か情報をお持ちでしたらお願いします。

○事務局 数億円単位で他の自治体に流れていると記憶しています。ただ、他市とちょっと違う状況なのは、今回この計画を前回の委員会の委員さんの方々としっかり作る事ができたということがあったので、1,370億円の事業費に対しても改築基金というものを、計画を作ったあとに作っていただいている状況です。1,370億円であれば、それを裏付ける財源が確保されているというような状況にはなっているので、例えばそういった減収が、積立がだんだん難しくなっているとまた状況が変わるかもしれませんが、現段階においては、そういったことの裏付けをとって進めているという状況にはなっております。

○会長 はい、ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

○委員 今後、同じような形での予算でという話がありましたが、先ほど課長か

らもあったカーボンの問題の方ですが、2025年からだったかな、先ほど先生方からもお話があったように断熱等級がここで今変わってくると、外断熱をしないといけない。これは完全に施工費に来るだろうなというのがあります。またこれが、断熱がうまくいくと光熱費もかなりランニングコストとしては下がるという話で、あとプールの問題も今後地下に入れて欲しいなというのがあるんですが、そうすると、スポーツのまち府中としても、水泳が出来ると。十中だとかに予約を入れて、地域の人たちが入る。これが一年を通して出来たらいいなと。品川の日野学園だったかな。地下に子供たち用の温水プールと地域の人たち用の温水プールと2つありまして、それが1年中稼働している。コミュニティ、文化センターの活用審議会みたいなのもあって、文化センターもちょうど50年経って建て替えというお話があって、これも中に入るといいなと。元々言われている学校自体が朝から始まって夕方、これを過ぎると空き教室になってしまっているのを何とか地域に使えないかというお話もあつたりですね、ここら辺も地域との交流という意味で上手くいかないかなと。何が言いたいかというと、予算を1校当たり言われてますが、これももう既に膨らむ話が、今でいうと断熱の問題とか出てくるので、その手前になって考えるよりは、先々の話をこう入ってくれば。で、木質化の1億円というのもありましたけど、これは既にないだらうと。次からないんじゃないかと思ってるくらいの感じなんですけど、そういったことも具体的に活用できたらいいなというふうに思います。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。何か事務局の方から補足される点がありますか。

○事務局 はい。貴重なご意見いただいてありがとうございます。今ちょっとこう、作る側とか使う側とかの話を私たちの方もメインでしていたんですけども、今、おっしゃっていただいたご指摘の中で、例えばプールを夜間に開放して無料化できる、そうすると市民の方に当然メリットがあるんですけども、収入として入ってくるのかですね。あと、他の施設を工夫したことによって、例えばそこに空いた土地を市としてまた新たな活用をするとか、それを反映して新しい収入を確保できるっていう時に、違う取り組みにつながっていくこともあるかと思いますので、本当はそういったところも教育委員会として学校側で何か工夫することによって、かかってくる費用はなかなか抑える事は難しいんですが、新し

くこうしたことでこういったものを生み出しますよ、という提案も、こういった計画の中では新しい発想としてあるのかな、というように聞いていて思いましたので、そういったところもご意見出していただけるとありがたいなと思いました。

○委員 ありがとうございます。品川辺りを見るとですね、教室が広がるじゃないですか。教室自体に仕切りがないんです。それで移動式のパーティションを置いてあって、それを置くんですよ。これで教室が2つあって、その騒音の問題だとか授業が成り立つんですかって言ったら、全体の響かないような消音設備の壁があって、意外と大丈夫だと。そして、教室と教室の間にちょっと空間があればそれで大丈夫だと。そうすると、それで建築費がどちらかという安くなる。そして子供の数だけの教室の数だのが多くなる、少なくなるというのに、十分に対応ができて、地域の人たちが使うときにはフロアを全て使う事ができたりとか。ちょっとその発想を思いっきり色んなところから持っていったら面白いかなと思います。以上でした。

○会長 はい。ありがとうございます。最初にいただいた複合化とか、運営面の変更みたいな、ちょっと大きなフレームの変更にかかる部分もあるので、その辺りは、個別に計画の中で議論するところと、付加的に視野を広げて議論するところは整理しながら進めていただけるといいのかなと思いました。その他いかがでしょうか。まだ発言されてない方。

○委員 この間見学させていただいて、本当に立派なものが出たなというのが率直な感想ですが、私、一中に行くことが度々あるので、行く度に、ああこんなところに新たに棚が出来るとか、ここはガラスの内側に紙を貼られて中が見えないようにしてるんだなっていうことがいくつかありまして、いいと思って作ってはみたものの、やはり実際に使ってる方々がそれを活かしているのか、やはりここは違ったんだなっていうのが、色々出てきているのかなと思ってます。なので一校当たりアンケートを出していただくことになっていると思うので、実際に使った方の率直な意見を本当に聞きたいなと思っていて。いい面もあれば、絶対工夫した方がいいっていう部分が出来ていると思うんですね。全体的に見て、こんなに立派な建物にしなきゃいけないのかなというのが率直な

感想で、実際にはまだ古い建物の中で学習している児童や生徒が多い中、環境の差がすごく大きいなと感じているので、これから物価が安くなる事はないと思うので、光熱費とか色々な面を考えると、ある程度の線引きというとあれなんですけど、技術はどんどん高くなっていくので、これからかかる費用も上がってくるとしか思えないので、やはりどこまであればみんなが良い学習ができる状況ができるかっていう、その辺の課題というか検討もしていただいた方がいいかなと思います。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。今の点は何か補足される場所がありますか。よろしいですか。実際に使ってみてどうかってことですね。学習センター周りとか、メディアセンター周りとか。使ってみて、設計上の意図どおりに上手く使えているかどうかの検証も必要でしょうし、場合によっては、十分に使いこなせてないので、使われる方々への運用面のサポートっていうのを継続的にしていかなきゃいけないところ、もしかしたらそれは校務センターとかその辺りも少し整理をして議論を進められたらと思います。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○委員 私も感想になるんですけども、今の委員と同じような視点で、教育という観点で校舎の方を見させてもらいました。機能的に様々なものが有効に機能してるっていうところがやはりすごく気になるところで、ちょっと凸凹してる部分っていうのを見た時に、やはり死角が多い部分があったりとかして、いろんな目隠しが色んなところにあるんですけども、隠れられたり、目につかないようなものも結構あるなっていうような印象を持ちました。ただ、すごく明るくて、新しくて、生徒にとってはいい環境の中で学習が出来るのかなというふうには感じたんですが、先ほど言われたように、まずは先生方とか生徒とかがこの校舎に来て、どんな印象受けて、使い勝手がどんなふうなのかということのを是非確認をしていきたいなと思っていますし、またこれから20校30校って改築していく上で、これからの経済状況とか、人口動態とか、さまざまな課題が出てきて、改築の計画を持続可能な計画にしていく上で、不易と流行の部分というんでしょうか。ここはきちっと標準化していきましょうという部分と、また時代が重なっていく上で、やはり必要となるもの、例えば今この校舎でいえば、LGBTの問題とかまた特別支援の問題とか、色々なものが入ってきていますが、教育課題

というのは、多分ずっとやはり年代を経ていくごとに様々な問題が起こってくる。不登校の問題もありますし、そういったものにやはり対応できるようなモデルチェンジというような部分もやはりどこかでまた見直ししていかなくちゃいけないようなそんな状況も生まれてくると思いますので、そこら辺を見通した上での計画というのが必要になってくるのでないかなというふうに思っています。感想です。

○会長 はい。ありがとうございます。感想ということですので、頂戴してきたいと思います。他によろしかったでしょうか。

○委員 先ほどから出ている話と同じなんですけれども、プールに関しては、夏の間一体何日間泳いだのかなあというところが疑問です。今年は特に暑すぎて、暑くて中止という連絡があったようで、実際にかけた費用に見合った活用が来ているのかなというところが疑問です。資材の面も今後も上がり続けると思いますので、最初の計画の予算なんですけど、これをどこかで増額するような予算が今後立つのかどうかわかりませんが、この部分でいくと、どんどん削除して行かないといけない部分が増えて、同じ公立の小中に通う子供にとって、あっちの学校はこうだけこっちの学校はこうだよ、という段々こう貧相になっていくのもちょっと残念な気がするのと、あと設計とか建築に関してはちょっと難しいのでよくわからないんですけど、見学をさせていただいて、一中は私もよく行く機会があるんですが、一中の創作メディアスペースに立派な大きなテーブルがいっぱい置いてあったんですけど、そこにテーブル付きの椅子をいっぱい出されていて、どうも音楽室で使うとローラーがついていて滑っちゃって危ないっていうんで、これはちょっとここでは使えないよって言って出したふうだったんですけど、そういうところのよかれと思って準備されたものが実際には使われない。棚もあちこちに作られているんですけど、どれほど使われているのかなというのがあったりとか。あと、メディアスペースですかね、スタジオというのも、結局ボランティア部が和太鼓を収納している感じなんですけど、その横のメディアスペースというところのライト、本当にスタジオみたいな、ここで何をやるんだろうという、ちょっとした空間なのにLEDのライトなどがスタジオみたいに一杯ついていてこれは必要なのかなって。最初に一中を見に行った時に、そこには段ボールが収納されていて、使い道がないんだなと思っ

たんですね。だから、そう大した額ではないかもしれないですけど、加算していくと高額になっていくんじゃないかなといういらぬ部分が結構あるのかなという気がしました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。多分、そうですね。全部積み上げていくと大きな予算になってしまいますので、メリハリを付けてというところになるので、確実に今後も持続させて整備していく部分と少し厳しめに点検する部分というのを審議するための議論を続けたらいいかなと思います。

○委員 私はずっと府中で暮らしておりまして、子供の頃から府中市で育っております。先日は見学させていただいた中で、本当に私たちの税金がとても子供たちの学びのため使われているんだなということで、とても感銘を受けました。子供たちの学びの場だけでなく、学校に置かれている機能として多様性であったり、災害であったり地域活動であったり様々なものを担っているんだなというふうにととても痛感させていただきました。私、保育園を府中市内で運営させていただいているんですけども、今年の入所の子供たちの申し込み、全体で100人程子供たちの申し込みが減っているんですね。100人といったら、申し込みが減ったということは、小学校レベルではとても少ない数なのかもしれないんですけど、保育園から考えていくと、本当に一つ無くなっちゃう、そのくらいのことになってくるんですね。そう考えていくと府中市内で今後少子化を考える時に、地域であったり、そういうものをしっかりと学校機能としても差別化、差別化も含めてなんですけど、少子化というのが大きく影響していくんだなというところと、今後の予算1,370億円という計画ではあるんですけども、この中でしっかりと精査していくことがとても意義のあることかなというのが私の感想でもありますので、よろしく願いいたします。

○会長 はい。ありがとうございました。それでは、ほぼ皆さんからも意見いただきましたので、前回の見学も踏まえて色々フィードバックが得られたのは良かったと思います。いただいた意見に基づいて、今後の資料作成等を事務局の方でも整理して進めていただければというふうに思います。他になければこちらの方の議題は以上としますけど、よろしいでしょうか。はい。それでは次に、次第4の「その他」について、に進みたいと思いますけれど、事務局から説明をお

願います。

○事務局 それでは次回、第4回について説明をさせていただきます。次回第4回は、11月14日火曜日13時30分から、本日と同じ、ここ片町文化センターの講堂で開催いたします。ご多忙かと存じますが、ご出席のほど、よろしくお願いたします。以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございます。只今、事務局から説明のあった「その他」について、何かご意見やご質問はございますでしょうか。大丈夫ですか。

《委員：意見や質問なし》

○会長 はい、特にないようですので、これで一応予定していた議題は全て終了いたしましたので、ここままで本日の第3回府中市学校施設老朽化対策推進協議会を終了させていただきたいと思えます。皆さん議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それではお疲れ様でした。